

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市町村名 枚方市

実践研究校名 桜丘北小学校

【公開授業】公開日：平成25年10月25日

対象学年：第5学年

(教材・教科書名) Hi, friends! 1 (単元名) Lesson 5 What do you like? 友だちにインタビューしよう	(本時の指導の目標) 好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しみ、積極的に尋ねたり、質問されたことに答える。
--	--

(本時の授業において工夫した点)

- “What ... do you like?” “I like” の表現に慣れ親しむために、たくさんの友だちに英語を使ってインタビュー活動をする場を設定した。
- “What ... do you like?” の...の中に自分達で聞きたいことを班で決させることで、活動の対するモチベーションの向上を図った。
- 友だちにインタビューをした後、班活動でインタビューの集計をさせ発表する場を設定し、結果について学級で共有する場とした。

(授業を終えた教員の感想)

- 子どもたちが授業に楽しく取り組んだ。
- インタビュー活動により相手に自分の気持ちが伝わる喜びを感じさせることができた。
- “What ... do you like?” の...のところに入れる単語を辞書で調べさせたことで、子どもたちの興味関心が高まり、より意欲的に取り組むことができた。
- 会話時のアイコンタクトの大切さを理解して、活動に取り組む児童が多く見られた。

【研究協議会】

(テーマ) 外国語活動を通した魅力あるコミュニケーション能力の育成	(指導・助言者) 関西外国語大学 教授 松宮 新吾 氏
--------------------------------------	-----------------------------------

(研究協議会で出された意見)

- “What ... do you like?” の表現を言語活動で用い、～に子どもたちが調べた語を入れたことで、会話の幅が広がり今後の外国語活動の可能性が広がった。
- 学習をしたことを生かし、聞き返すことが自然にできていてよかった。
- デモンストレーションで教師がわざと間違え、日本語と英語で表し方が異なる語について子どもたちに気づかせたことによって、子どもたちに安心感が生まれた。
- 振り返りシートは紙で書いたほうがよい。(今日は時間の関係上、挙手にした)

(まとめ)

1. 大きな声で活発に自分の意見をお互いに言い合えるといったコミュニケーションの素地ができています。
2. たくさんのコミュニケーションの中でお互いの発言に対し語のキャッチボールをしているのがよかった。
3. チャンツの中で、強調する単語を発音するときに、体を沈みこませたり、床を踏むなど体も使って理解させることが大切である。
4. 全体ワークからペアワークへのダイナミックな動きがあったり活動のメリハリがあってよかった。
5. 異文化コミュニケーション能力は10歳までに育つため、この時期の子どもたちへの英語教育が大切である。
6. 活動の前に feed back ではなく、feed forward (こういうことを期待している) を明確に示すことが大切である。本日の授業の中で、活動の途中に活動を一度止めて、feed back と feed forward をしたことがとてもよかった。
7. 日本人の外国語指導における7つの落とし穴 (①数の概念 ②時間の概念 ③前置詞 ④冠詞 ⑤語順 ⑥日本的な発想 ⑦発音) を克服していくことが、指導者として求められている。
8. 発表までの流れが、なぜそう思ったかを踏まえた予想の後で、インタビューをし、その結果の集約を発表する形になっていたことがよかった。
9. タスクベースの活動において意味交渉する活動ができていた。
10. 使える英語とは、①正確な英語、②使ってみたくと思わせられる、③言葉を使って結果を出す ことと考えている。